

どんなことわざがありますか？

マリナ (ブラジル)

ブラジルには「ツバメが一羽きたとて夏にはならない」ということわざがあります。日本にも似たような表現があり、何か良い兆しがあっても、それだけで物事全体がうまくいくとは限らないという教訓として使われることが多いですが、ブラジルでは「一人の力だけでは大きなことはできない」という意味で使われています。このことわざは、お互いに助け合うことの大切さを教えてくれる言葉です。文化や言葉の異なる人々が共に暮らすようになっていく今の日本においても、共生社会を実現するために欠かせない考え方ですね。←



ケイン (オーストラリア)

英語では、「早起きの鳥が虫を捕まえる」ということわざがあります。早く行動する人が成功するという意味です。つまり、最初に行動した人に、最も大きなチャンスが与えられるという前向きな教えです。しかし、このことわざには続きがあります。「でも、2番目のネズミがチーズを手に入れる」。最初のネズミは罠にやられますが、2番目のネズミはそれを避けてチーズを手に入れることができます。つまり、早く行動するのもいいですが、必ずしも最初が得とは限らない、という意味です。皆さんはどっち派でしょうか？



中国には、日本とよく似たことわざがたくさんあります。言い方は違っても、伝えたい意味は同じです。例えば、日本語の「馬の耳に念仏」は、中国語では「牛に向かって琴を弾く (対牛弹琴)」と言います。つまり、音楽がわからない牛に向かって琴を弾くという意味です。また、日本語の「鬼に金棒」は、中国語では「虎に翼 (如虎添翼)」と言います。つまり、虎に翼が生えるという意味です。このような似た表現は本当にたくさんあるので、日中の文化は長い歴史の中で深く結びついてきたのだと実感します。とても興味深いですね。

席 (中国)



マルチ三重



Multicultural Mie

ご意見募集中！
あなたの声が、次回の
ニュースレターで紹介
されるかもしれません。
お気軽にご参加ください！